

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2019.10.20 Autumn

No.

64

NEWS



3会場ごとにサブテーマを設定、さまざまな課題を議論

2019年度障がい者の働く場

パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して

リレーコラム
夢をつないで
第14回

きょうされん
理事長 斎藤 なを子



生産性や効率性では
おしはかれない
価値を紡ぐ

Profile

1959年生、埼玉県さいたま市出身、日本女子大学文学部社会福祉学科卒業。大学在学中、旧与野市での作業所づくりの運動に関わる。1982年4月、大学卒業と同時に無認可作業所の専従職員となる。現在、(社福)鴻沼福祉会常務理事。2019年5月より、きょうされん理事長。

「今は午前中だけ働いています。お客様の喜ぶパンをつくりたいと思っています。パンのあんこ詰めは20年近くやっています。あんこ詰めは落ち着けます。あわただしい朝でも集中できるので一人のペースでできます。大事な仕事をまかされていると思っています」。

Sさんは49歳。21歳の時に発病し、人生の半分以上を病気と一緒に生きてきました。今は一人暮らしをしながら、作業所(就労継続支援B型事業所)でパンを作っています。

「入院生活は鍵のかかった病棟でした。鍵が『ガチャン』と閉まった時に、母が泣いていたことを後になって知りました。『治った』とうそをついて退院し、病状が安定しなくなりました。2〜3カ月で職を転々とし、どんどん自信をなくしていき、仕事をなくなり一番つらかったのは、一人でおにぎりを食べながら、家族の帰りを待っている時間でした」。

窓越しの空は本当にどんよりと見えたそうです。

「病気がことが友人達に広まったある日、先輩が家に来て、頭から足の先までジロジロながめて黙って出ていったことがありました。ある会社では、病気のことを話してすぐにクビになりました。病気のことと差別されたり、わかってもらえないことも、とてもつらい」。

「僕は作業所で仲間にくまれました。やさしく相談のつてくれたり、仲間は本当に大切です。朝、お互いに手を上げて『やあ』と言っただけで通じ合うものがあるんですよ」。

「もう病院には戻りたくありません。これからも今の生活を安定して続けたいです。仲間を大切に、みんなが一生懸命にパンをつくり、きれいに包装をして、掃除をして、毎日を繰り返して、自分の力にしていきたいです」。

緊張しながら、汗をぬぐいながら、大きく呼吸をしながら、とつとつと語るSさん。その人生体験をくぐりぬけた言葉の一つひとつに、Sさんの人間性が滲み出てくるようです。安心できる居場所があり、自分に合った仕事があり、通じ合う仲間がいることが、どれほど大切なものであるか、それを紡ぎ出す作業所での営み。その価値は、生産性や効率性では決しておしはかれないとSさんの姿が教えています。

CONTENTS

表紙写真

筑波大学 人文・文化学群人文文学類3年の奈良場春輝さん。奨学生レポートで、キャンパスにお邪魔し、お話を伺いました(12-13p)。

04 3会場ごとにサブテーマを設定、さまざまな課題を議論
2019年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム
経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して

10 助成先レポートVol.39
合同会社ロイヤルウォッシュ(大分県豊後大野市犬飼町)
仕事の厳しさが新しい自分への一歩になる

12 奨学生レポートVol.12
大学は固定観念を打ち砕いてくれる場所
フィールドワークで触れる「本物」の魅力に夢中!

08 夢へのかけ橋実践塾
7名の塾生が旅立ち、
20名が新たにスタート

14 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
待っている"人"のもとへ。
1冊1冊、情熱と責任感を持って。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。



松井 拓哉さん

入社1年4カ月。給料で新品の自転車を購入、グループホームから最寄りの駅まで自転車通勤。工場全体の動きを見ながら洗濯物を機械に投入していく洗い場を担当しています。夢は列車の車掌か駅員！（10～11p参照）

人は、自立することで
幸せを感じられる



上野 博孝さん

いろいろな職場を経験して、ロイヤルウォッシュは運命的な出会いだと話す上野さん。給料で念願のエレクトーンを購入。会社の忘年会には自宅のエレクトーンを会場に持ち込み演奏するのが恒例となっています。（10～11p参照）

2019年度

3会場ごとにサブテーマを設定、さまざまな課題を議論

障がい者の働く場

パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して



本年度は、福岡(7/12)・東京(7/26)・大阪(8/23)の3会場で開催



「人がやらないことをやることにこそ、喜びと価値があります」と山内理事長



「障がい者を閉め出す社会は、弱くもろい」ときょうされんの藤井専務理事



「人は自立して生活することで
幸せを感じられる」
そのための支援を

「障がいのある方に、やりがいのある仕事と高い給料を、どうやって実現していくか」。本年度は、3会場でパワーアップフォーラムを開催しました。福岡はへより高い賃金を目指して、東京は「共に働き共に生きる」障がい者の働く場、大阪は「障がいのある人が働く場に求めていること」と、それぞれサブテーマを設け、いま福祉施設が抱える課題点を講演者と来場者が一緒に考えていきました。

冒頭で山内理事長は「私は6月に本財団の理事長に就任したばかりですので、今日は、みなさんと一緒に学ぼうとここに来ました。人は、自立して生活することで幸せを感じられます。いま障がいのある方に一番必要なのはより高い給料です。それを実現した先輩方の話を聞き、一つでも多くのヒントを持ち帰ってく

ださい」と主催者挨拶を行いました。

時流講座では、きょうされん専務理事の藤井克徳氏が、3年前の津久井やまゆり園での悲劇を振り返り「事件の背景にある歪んだ思想はいまも根深く残っています」と講演。

旧優生保護法制定から国内で約48年も続いた優生思想や、第二次世界大戦中にドイツで行われたT4作戦などの障がい者への言われない被害を説明しました。

「こうした問題を解決するには、実際に障がい者がイキイキと働き、暮らしている姿を世間に見てもらいたくないと、私は考えます。デイセントワークは、人に与えられた当然の権利です。障がいのあるなし関係なく、だれもが平等に仕事と給料を得られる社会を実現していきたい」と呼びかけました。

来場者の心に響いた 当事者の声

三つの会場ではサブテーマに合わせて、歴代の小倉昌男賞受賞者が講演しました。さらに各会場の地元福祉施設で働く6名の利用者さんが「当事者の声」を発表。いま感じている働く喜び、新たに広がってきた夢や目標などを伝えると、会場からは大きな拍手がわきました。

続いて藤井氏がコーディネーターとなり、シンポジウムへ。来場者が抱く疑問に、登壇者はそれぞれの経験を通して、その思いを伝えていきました。

2年目の沖縄会場

10月18日、昨年に引き続き沖縄でパワーアップフォーラムを開催。沖縄の実行委員会が主導となり3年計画で展開する独自のものです、当財団は段階的に応援をしています。

※治療の見込みがない病人や障がい者約20万人が虐殺された。ベルリン市内のティアガルテン通り4番地に作戦本部があったことからT4作戦と呼ばれた

福岡会場 エルガーホール

「より高い賃金を目指して」



シンポジウムでは「給料増額に挑む中、悩んだことや失敗もあったのでは？ それをも乗り越え進んできたモチベーションとは？」といった質問が挙がりました。

一般企業に負けない 強い商品力と体制づくりを

7月12日、パワーアップフォーラム本年度最初の開催地・福岡のサブテーマは「より高い賃金を目指して」。登壇したのは、夢へのかけ橋実践塾の塾長の3名です。

「目標は、障がいの種別に関係なく生活できる給料を支給すること。それを可能にするのが、商品力と支援力です」と(社福)はらから福祉会の武田氏。はらから豆腐、牛タンなどは、一般企業に負けない高い品質を誇ります。

「障がい重い人は、個別支援しなくてはなりません。集団で働くことで

周りのペースに合わせて働けるようになります。」

設備投資も続け、食品衛生法に対応するHACCPも取得。目標の平均給料7万円まで、あと一歩です。

DMの封入封かんを行う(社福)武蔵野千川福祉会の新堂氏は「プライベートマークを取得しているか否かで受注量は大きく違います。もちろん、働きやすい職場改善や生産性を上げるための機械化も必要。最も大切なのは、利用者さんの働く力を高めることです」と話します。

「給料が上がるとともに、利用者さんの働く態度も変化します。10万円を超えると、自分だけではなく周りのサポートも自然にできるよう

になる。その頼もしい姿をぜひみなさんにも見てほしいですね。」

弁当と高齢者食の製造・配食サービスで成果を上げる(社福)キャンパスの会の楠元氏。

「お弁当を写真で残し、日々の商品改善を繰り返しています。食材の仕入れ交渉、原価計算、日々の売上管理など、やるべきことはたくさんある」と話します。

「高齢者食は、すでに利用者さんの刻み食、とろみ食などを作っている福祉施設が有利です。1カ所にまとめて配食するので効率も良くなります。必要なのは、利用者さんの給料増額のためになんとかしてやるべき、強い覚悟です。」

(社福)はらから福祉会 理事長
第3回ヤマト福祉財団賞受賞

武田 元 氏

障がいの重い軽いは、支援の差だけで、準備さえ整えればなんとかなるもの。悩んだときは、なぜこの施設を立ち上げたのか、原点に立ち返ります。



(社福)武蔵野千川福祉会 常務理事
第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

新堂 薫 氏

やってできないことはない、いずれはできるようになると、利用者さんの力を信じて、焦らずにやってきました。その姿勢は、今後も変わりません。



(社福)キャンパスの会 理事長
第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

楠元 洋子 氏

私も最初は普通の主婦。ただ商いに興味があり、いろんな方と出会い連携し、可能性が広がりました。みなさんも挑戦あるのみです。



当事者の声「働く本人からのメッセージ」

(社福)つくしの里福祉会 第2つくしの里

Aさん

11年間も在宅生活だった私が、いまは通所し仕事しています。仕事をする中で、私は私の存在価値を知ることができ、一人暮らしを始める決意もできました。作業所は、私の大切な居場所だけでなく、生きていく自信を与えてくれるところ。これからはもっと高い給料を、さらに一般就労もできる力を身に付けていきたいと考えています。

(社福)さざなみ福祉会 さざなみAloha

中西 昌夫さん

昔、私自身が障がいを受け入れられず、一般就労に失敗。しかし、家族の支えとAlohaとの出会いで、いまは得意な仕事を落ち着いて行えています。もっと趣味を増やし楽しみたい、そんな心の余裕も生まれました。



東京会場

全社協 灘尾ホール

「共に働き共に生きる」障がい者の働く場



シンポジウムでは

「美味しい商品なのになぜうちは売れないのか」「障がいの種別に関係なく同等の給料にすべきか」などの質問も。講演者は、自らの経験を例に出しながら回答していきました。

(社福)共生シンフォニー 常務理事
第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

中崎 ひとみ 氏

自分たちの商品は、ついひいき目に見てしまう。本当に売上や利用者さんの給料を伸ばせるのか、経営者として冷静に判断してください。



(有)ドアーズ 代表取締役
(社福)慶光会 理事長
第12回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

柴田 智宏 氏

利益をどう追求するかスピーディーな経営判断が必要です。施設運営と企業経営、両方の視点を養い、いまの状況を見直してほしい。



(NPO)ENDEAVOR EVOLUTION 理事長
第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

松浦 一樹 氏

努力した者が正しく評価されるのが平等な職場です。月給以外に特別手当やボーナスを出し、全員が前向きに進めるようにしています。



働く選択肢を広げれば 働く喜びも広がっていく

7月26日に開催した東京会場のサブテーマは、「共に働き共に生きる」障がい者の働く場です。「最初は苦労の連続でしたが、それでもうちは『働く施設』だという信念を貫き、いまがあります」と(社福)共生シンフォニーの中崎氏。クッキーの製造販売で成功し、OEM受託でさらに売上は加速し、多い時の売上は年間約1億9000万円に。しかしバブル崩壊で経営難に陥りました。「だれの、なんのための仕事か。原点に立ち帰りオリジナル商品を柱に事業を建て直しました。利用者さん

が他の得意な仕事もできるように事業を広げ、現在は七つ、来年は10事業所に増やします」。

働く選択肢を広げるという考え方は、(有)ドアーズの柴田氏も同じ。「施設で10万円もろうより9万円の良いから企業で働きたいと利用者さんに言われ、働き方を選べることの大切さに気づきました」。ドアーズの名は、人の可能性を開く複数のドアという意味があります。ここではシングルマザーや高齢者など就職で悩む人たちも雇用しています。いまやペットフードのOEMビジネスで売上は年間約8億円。現在、近隣の福祉施設と協働することにも、より多くの施設とビジネスノ

ウハウを共有できる「地域働くセンター」も開始しています。

ENDEAVOR EVOLUTIONの

松浦氏は、元刑事という異色の経歴です。福祉の世界に踏み込んだのは、罪を犯した少年たちも障がいのある方と共に働くことで社会復帰の道を開くことができる、と考えたからでした。「障がい者が企業で働くための職能や社会的能力を段階的に身に付けるステップアップシステムを考え、共感いただいた5つの会社と一緒に仕事をしていきます。やれること、やれないこと、いろんな経験をして、これが好きだと言う仕事を見つけることこそが大事です」。

当事者の声「働く本人からのメッセージ」

(社福)ネット 仲間の家

芝田 実さん

私は仕事を失ってからアルコール依存症になりました。しかし、いま断酒できているのは、安心して通える場所、働く場所があるからです。働くということは、人生の質を上げる大切なことなのだ改めて感じています。



(社福)武蔵野千川福祉会 チャレンジャー

遠藤 智大さん

チャレンジャーで働くことが私の夢でした。ここは他より働く力を求められますが、お給料もたくさんもらえます。親元を離れて暮らし始めました。もっと仕事を覚え給料を上げ、自分の力で暮らしていきます。



大阪会場

マイドームおおさか

「障がいのある人が働く場に求めていること」



シンポジウムでは

「利用者さん、職員の働く意欲を底上げするには」「制度の変化にどう対応すべきか」などの質問に、3人はそれぞれの経験から回答していただきました。

自由に仕事を運びたい 気持ちは障がい者も同じ

8月23日、大阪会場で最初に講演した(社福)ぷろぼの山内氏は、東京でIT企業を運営していました。喉頭がんで声と職を失いました。「働くことは、人らしく日々を生きる大切な行いだ」と、身をもって知りました。その後、奈良県で障がい者の就労をITで支援する事業所を開設。「私たちは、社会人スキルの修得と魅力的な働く場の提供の2方向を同時に進めています。現在は、ソフトバンクと提携したロボテックス事業、また、在宅やテレワークなど働き方の多様化も進めています」。

ます」。

大分県で喫茶・レストランなどを経営し、知的障がい者の自立に取り組む(社福)シンフォニーの村上氏。「利用者さんには、地域で働き生活していくためにも、一人でバスに乗る、お金を使うことなどができるように、一人ひとりに合わせた訓練を行っています」。さらに行政、交通機関などの理解と協力を得て、実際に社会の中でさまざまな経験を積めるようにもしました。地域の方の利用者さんや職員を見つめる目はあたたかく、いつも感謝している。村上氏は話します。「それに甘えず、商品の品質やサービスを高めていくこと。それが安心して働ける、暮

らせる生活環境を築くことにつながるのです」。

東京都内で精神科ソーシャルワーカーとしても長年活躍されていた上野氏が大切にしているのは、利用者さん一人ひとりに寄り添う姿勢。「収入がない、家族と一緒に暮らさなければ暮らせない、将来が見えない」と言う方でも、なにか特技を持っています。それを生かせる仕事づくりと支援を目指しています。「それを妨げるのは、人々の無関心。ソーシャルインクルージョンという言葉には、ともに行動するという意味もあります。ボランティアなど多くの人がオープンに参加できる場を広げています」。

当事者の声「働く本人からのメッセージ」

(社福)かがやき神戸 ぐりいと

仲井 真紀子さん

私の仕事はパフォーマー。イベントなどでクラウン(道化師)を演じます。不安障害があり、見えない車椅子に乗る私は、怖くてバスに乗れません。送迎のあるここなら安心して通え、私らしく働くことができます。



(社福)亀岡福祉会 第三かめおか作業所

廣瀬 美咲さん

クッキーなどのお菓子をつくっています。もっと給料をもらって貯金したいです。



鈴木 直さん

草刈りや清掃担当です。趣味はTVゲーム。ジムに通い、目指すは細マッチョ。

(社福)ぷろぼの 理事長
第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

山内 民興 氏

職員の福祉の捉え方は微妙に違います。それを伝え合い、反映した新しい就労支援の仕組みをつくったことで、離職率を改善できました。



(社福)シンフォニー 理事長
第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

村上 和子 氏

制度に振り回され、本来の目的を見失わないでください。A型でも移行支援でも、大切なのは、利用者さんの夢を叶える事業所であり続けることです。



(社福)豊芯会 顧問
東京家政大学 名誉教授
第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

上野 容子 氏

制度ありきで事業を考えるのではなく、目の前にいる利用者さんの「こういう仕事をしたい」を形にしていく。制度は、そのために活用するものです。



7名の塾生が旅立ち、 20名が新たにスタート

「夢へのかけ橋実践塾」で利用者さんの給料増額を目指してきた第2期楠元塾生7名が、今年9月に2年間の研修を終えました。そしていま新たに、第3期楠元塾生10名、第4期新堂塾生10名の計20名が、それぞれの目標達成に向け一步を踏み出します。

夢へのかけ橋 プロジェクト



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

楠元塾(第2期修了式・第3期開講式)



塾長の真似からはじめたことが
2年間ですっかり自分のものに

9月27・28日、東京都中央区のホテルフクラシア晴海で第2期楠元塾修了式を行いました。山内理事長は「弁当配食サーブスについて学んだこの2年間、たくさんの苦労があったと思います。それを乗り越えてきたことを誇りに、みんなが幸せになれる社会を築いていく、ください」と挨拶しました。

塾生たちの表情は、一つのことをやり遂げた充実感でいっぱいです。「メニューや盛り付け、作業の段取り、7Sの徹底など、塾長のやり方を見よう見真似ではじめたことが、やっと自分のものになってきました」「容器洗いしのできなかった利用者さんが、いまは包丁を



「3期生のみなさん、ここには頼れる塾長と同じ志を持つ仲間がいます。どんなに思いが強くてもやり方を知らなければ実現できません」と山内理事長



「卒業してもみなさんは、一人ではありません。ここにいる仲間とのつながりがあれば、どんな失敗も成功の糧にできるはずですよ」と楠元塾長

持ち弁当の仕込み作業で力を発揮しています「給料が上がった！と喜ぶ利用者さんを見て、この笑顔のためなら、もっと頑張れると思います」と、2年間の成果を報告しました。楠元塾長は「最初は弁当屋」ここにしか見えなかったみなさんが、いまは立派な弁当屋さんですね。大切なのは、ずっと挑戦し続けること。いつでも私は相談に応じますよ」と激励の言葉を贈りました。

新塾生それぞれに合う方法を 一緒に考え実現しましょう

同日には、第3期楠元塾の開講式を行いました。2期生や応援に駆けつけた1期生の報告を聞き入る新塾生の姿は真剣そのもので



東京から鹿児島まで10施設が参加。「美味しいだけでは弁当事業は成功しません」と話す楠元塾長の言葉に、全員が身を引き締め、今後の課題を一つひとつ書き留めていきました

す。先輩の報告には、PDCAや棚卸し、原価計算、弁当を毎日撮影し記録するなど、新塾生には初めて聞く内容もあります。

「弁当の写真を毎日記録しておけば、以前オードブルを購入されたお客さまが、前と同じものを」と注文された時、要望通りに対応できますし、盛り付けなどの反省点を活かすこともできます。このように弁当は毎日でも改善できる事業です。お客さまがなにを望んでいるのか。一度購入されたお客さまをリピーターにするにはどうしたら良いのか。それぞれの地域で客層も食材も違いますから、塾生一人ひとりに適した方法をこれから一緒に考え、実現していきましょう」と楠元塾長。こうして3期生の実践塾は、スタートしました。

数字の重要性を改めて確認 「第2期楠元塾／収支研修会」

卒業後も健全な経営ができるように。8月30・31日の最後の研修会は、原価率や会計について学びました。弁当配食サービスの適正な原価率とは。棚卸しのやり方がどう影響するか。その上でメニューやレシピをどう改善するのか。さらに飲食業に不可欠な7Sの徹底まで、楠元塾長は塾生の収支報告とメニューをもとに、各人に具体的なアドバイスをを行いました。「数字のことがわかっていないと美味しい弁当を作っても倒産してしまいます。目標を見失わずに進み続けてください」と伝えました。



弁当製造の技術の向上と、会計の理解は車の両輪。財団が提供する収支管理システムの使い方を学び、日々のPDCAに活かすことを学びました

塾長賞

塾長賞は、茨城県の(一社)おひさまの事業所「いいはたらくばトポス」の小林綾子さんです。入塾時に比べ売上337%、1日の弁当販売数445%、給料は198%に増額できました。「なんでも素直に受け入れ、自ら工夫し続ける姿は立派です」と楠元塾長は評価しました。



「2年前、塾長賞をもらった先輩を見て、利用者さんのために私も」と頑張りました」と喜びを語る小林綾子さん

いいはたらくばトポスの2年間の成果

	2017年10月	2019年8月
営業日数	21日	19日
売上	733,860円	2,474,003円
弁当月間売上個数	1,581個	6,349個
1日当たりの弁当製造個数	75個	334個
固定客	6社(店頭5名)	61社(店頭30名)
利用者数	15名	26名
給料原資	324,347円	998,729円
平均月額給料	21,081円	41,698円

新堂塾(第4期開講式)

給料増額と利用者さんの 働く力を伸ばすために

9月13・14日、山口県宇部市の宇部興産ビル会議室で「第4期新堂塾」の開講式を行いました。

作業分化とライン化で生産性を上げるとともに、仕事の見える化などでより多くの利用者さんが働ける環境改善も指導する新堂塾長。塾長施設は、DMを中心とした事業所です。そのノウハウは事業域を超え、これまで3期にわたり、多くの塾生が給料増額で成果を上げてきました。

今回集まった10名の塾生の事業もペットフード、印刷、製菓、データ入力、農業、ウエス製造、DM事業などさまざままで、支給している

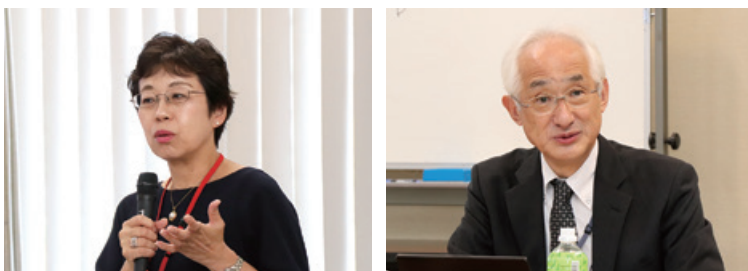


事業も環境も給料も、それぞれ異なる10名の塾生たち。しかし「利用者さんのためになんとかしたい」その気持ちはみんな同じです

月額平均給料も6700円〜4万6000円と幅があります。

塾生たちの自己紹介を兼ねた報告を聞いた新堂塾のアドバイザー・東京学芸大学の菅野教授は「今日の発表では、まだ利用者さんの働く姿や職場の問題点が見えてきませんね。次回は、事業所が目指す売上数値だけでなく、利用者さんになにを目指してほしいのかも明確にし、報告してください」と早速、課題を提示しました。

新堂塾長は「事業拡大や給料増額で一番大切なのは、職員のスキルアップです。私も最初はみなさんと同じゼロからのスタートでしたが、成長し続けてきたことで、いまがあります。これからの2年間、一緒に学び一つずつ成果を出していきましょう」と呼びかけました。



「なにを作っているのか、どう社会に役立っているのか。そこが見えてくると、利用者さんの取り組み姿勢も変わってきます」と新堂塾長

「各事業所に適した仕事と、利用者さんの役割を決めていく。その上で働く力を育て伸ばしていくのが、みなさんの仕事です」と菅野教授

仕事の厳しさが新しい自分への一歩になる

大分県の南、農林畜産業が盛んな豊後大野市は、源泉数・湧出量ともに日本で知られる別府温泉から車で約1時間です。この地でリネンサプライ業を営む企業が、A型事業所として関連会社を立ち上げました。企業が率先して福祉事業に取り組む理由とそこで働く利用者の姿を追いました。

Data

合同会社ロイヤルウォッシュ
大分県豊後大野市犬飼町



半乾きのシーツをクリップに止め、広がった順にローラーに。乾燥・アイロン・たたみまで自動化されている



上野博孝さんは「たたみ」を担当(3p参照)



「雇用保険は全員加入ですが、社会保険に加入できる利用者さんを増やしたい」副代表の宮迫奈緒美さん



「他施設の利用者さんにも働く場を提供したい」と語る代表の宮迫賢太郎さん

立ち上げから苦労らしい苦勞の記憶がないと笑う宮迫副代表。作業が多岐にわたる、本人の向き不向きに合わせて適材適所を探せるのは、クリーニング業の利点としたうえで、

「福祉面のサポートに関して、正直うちは手薄だと思っています。仕事面に関しては休みや遅刻にはかなり厳しいです。でも、意識の高いベテランのパートさんたちと一緒に働くうちに引

給料が利用者の生活を変えていく

「おんせん県を陰で支える大工場」

静かな里山の風景が広がる犬飼町に、平均月給が9万円を超える事業所があります。川沿いの緑の中、突然現れた工場に一步踏み込むと大きな機械がうなりをあげて、活気にあふれていました。

A型事業所・合同会社ロイヤルウォッシュは、23名の障がい者を雇用するクリーニング工場です。地元でリネンサプライ業を34年間続けるリファイン大分の第一工場を移管する形で、2013年に設立されました。

扱う洗濯物のほとんどが、ホテルや旅館のリネンです。「おんせん県おいた」の異名で知られる大分県。営業エリアは別府や佐伯、由布院から県境を越えて黒川温泉まで。約170施設から請け負っています。そして「最近、問い合わせが増えてきたのは高齢者向けグループホームの私物クリーニングですね」と、副代表の宮迫奈緒美さん。ちなみにこの工場ですべての処理する洗濯物の総量はおよそ2万枚！10tにも上るのだとか。それだけにまだまだ採用したいですね。あと10人くらいフルタイムで働ける方が欲しいです。と、さらなる障がい者雇用にも意欲的です。



全体の流れを把握し、洗濯物の投入量を管理する松井拓哉さん(3p参照)



助成によって新たに整備された「ガウンフォルダー」(写真右)。広げた作務衣をセットすると自動的にたたまれてくる(写真左)。人海戦術で対応していた、たまたみ作業が一人でこなせるようになる



浴衣をハンガーに掛けると、乾燥され、たたまれる浴衣たたみ機

き上げられるんでしょうか。最初は4時間勤務だった利用者さんが今ではフルタイムで働いたり、精神障がいでも休む方はほとんどいません。むしろ、繁忙期には日曜出勤にも応じてくれたりして、助けられていますね。本当に「利用者」の一人、上野博孝さんはいくつもの職場を経験してきましたが、今の職場が一番合っている」と言います。これまではB型事業所で給料は3万円ほど。しかし、同じ時間で倍は稼げるようになり、収入と生活が安定しました。10年越しの夢だったエレクトーンも購入し、現在の腕前は7級。将来、エレクトーンの専門学校に通いたいと定期積立も始めているそうです。

仕事を通じた福祉事業だからできること
宮迫奈緒美さんの兄で、ロイヤルウォッシュユ

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 34

ヤマト運輸労働組合
大分支部書記長
高瀬 哲也さん



働くことへの熱意、喜びは変わらない

たくさんの障がい者の方が働く、これほど大規模な施設は初めて拝見しました。皆さん、何しろ一生懸命。そして笑顔で働いている姿を見て、自分の中で持っていたイメージが変わりました。

組合と会社が一体となって、障がい者を応援していこうという気持ちが盛り上がった結果、今年の「夏のカンパ」は前年より多くの金額をお預かりすることができました。そうしたお金がこのような施設で有意義に使われることは本当に良いなと強く感じました。

DM便の仕分けや配達に大分支部で従事している障がい者の方もいます。私たちと何も変わりません。改めて実感しました。



リファイン大分の代表を兼務する宮迫賢太郎さんに、目標とするところについて伺いました。

「私たちにできることは仕事を通じた支援なので、生活部分は専門的な方に委ねたいと思っています。では、何ができるかといったら、稼ぐ能力を身につけていただくこと、それに見合った賃金をちゃんと払うこと。この点に特化して、しっかりとやっていきたい」とその役割を捉えています。

そもそもロイヤルウォッシュユの設立には、賢太郎さんの苦い経験がありました。10年程前のことです。

耳の不自由な女性がハローワークの紹介でリファイン大分にやってきました。仕事上の問題は何かありませんでしたが、休憩時間などで周囲とのコミュニケーションがうまく取れずに結

局、半年ほどで退職。以来、「もっと何かできることがあったんじゃないか」とずっと引っかかっていたそうです。あるとき、A型事業所を企業として行っている知り合いの弁当店を視察する機会を得ました。そこで湧き起こったのが「支援員と一緒に付いて働けば、むしろ企業のメリットを生かして、障がいのある方にも働いてもらえるのではないか」との確信でした。

今年の7月、作務衣などの畳みを自動化する「ガウンフォルダー」を当財団の助成を得て導入しました。本格稼働はこれからですが、手の空いた人員を需要が増えつつある私物クリーニングへ再配置すれば、さらなる給料アップが目指せます。できたら「利用者さんにとって交通の便の良いところに、もう一つA型事業所を作りたい」と副代表はそう最後に顔をほころばせました。



私たちの賛助会費が活かされています 奨学生レポート vol.12

キャンパスで日々、夢を追う障がい学生がいます。学びたいことがあるから、挑戦したいことがあるから…。そんな彼らを奨学金制度で応援しています。



奈良場 春輝さん

筑波大学
人文・文化学群人文学類3年

小学生のころに網膜色素変性症を発症。視野狭窄や暗いところで物が見えづらい夜盲の症状と向きあいながら、民俗学に惹かれて筑波大学に進学。学芸員資格と特別支援学校教諭免許の取得も目指し、忙しい学生生活を送っています。

障がい者奨学金制度

社会の役に立ちたい、自己実現を図りたいと、障がいを乗り越えて大学で熱心に学ぶ学生に月額5万円(返済不要)を助成しています。

大学は固定観念を打ち砕いてくれる場所 フィールドワークで触れる「本物」の魅力に夢中!

市井の人々のリアルに触れる

「自分の中で当たり前と思っていたものが思いつきり崩される。それが本当に面白いな」と。去年参加した秋田でのフィールドワークを振り返り、そう熱っぽく語ってくれたのは奈良場春輝さん。実家を離れ、筑波大学で民俗学を学んでいます。

実習で選んだテーマは柿漬けと呼ばれる漬物。地域の特産品として商品化されていく過程を、関わった人たちにインタビューして追いかけてきました。郷土食のレシピ一つとっても、姑から嫁へと単線的に受け継がれるのではなく、職場などを通じた複雑な情報のやりとりを経て形になっていく様子は、予想を裏切る展開で「実際に話を聞いてみないと分からない」と驚かされたそうです。

奈良場さんは眼を患い、現在は中心視野が8度ほど。本を読むにしてもはつきり捉えることができるのは「だいたい10玉か、大きくて500円玉くらい」、文字を読むのにも時間を要します。近隣は電灯が少ないところも多く「夜盲がある自分は、夜の移動に不安を覚えることもあります」。買い物には、一緒に付いてきてくれる友人や先輩もいます。料理のコツや生活の知恵などを互いに交換して、不便ながらも楽しく自炊生活を満喫しています。

民俗学という名の招待状

奈良場さんが民俗学に関心を持ったのは、中学高校での部活でした。所属する歴史研究部の引退が迫った高校2年のとき、部活動で初めて県大会に参加して発表しようということになりました。選んだのは、戦時中の航空兵器工場とそこに従事していた台湾少年工の歴史です。



視覚障害学生支援・準備室では、点字に変換できるコピー機や書籍を拡大表示できるモニターなどの支援機器が利用できる



昼時は人文・文化学群の同級生と学食で一休み



図書館で閲覧するのは民俗学の専門書



音を頼りに奈良場さん、決死のキャッチ！ ボールには鈴が仕込まれている(写真提供：埼玉ゴールボール)

に入って、ほぼ初めて受けました。そこで一番感じたことは、ユニバーサルな環境を作っていくには自分たちが頑張らなくて、働きかけをしなくてはならない部分があるということ」と、率先して活動する理由を明かしてくれました。

新たな自分を見出して

勉強も大忙し、ピア・チューターも大忙しの奈良場さん。大学に進学してからの変貌ぶりにはご家族も驚かれています。プライベートではケルト音楽サークルとゴールボールという障がい者スポーツにも積極的に参加。

「そんなにアクティブになるとは思っていなかった」とお母様に言われたとか。奈良場さん曰く「母が一番びっくりしたのは僕が白杖を持ち始めたこと。高校までは周囲の人たちと違うのは嫌だと感じ、白杖を手にするにはありませんでした。それが大学に入り、先輩たちが巧みに使っている姿を見て、考え方が変わったそうです。

「なんとなく、かついいなと思えたんですね。進学という節目で新しい自分を作っていくのにはちょうどいい機会かなと…。自分の障がいに対する理解が急激に進んだんですね。」

目下の目標は、ゴールボールの日本選手権大会への出場です。誘ってくれた先輩や仲間たちへの感謝の気持ちを、結果で表したいと語ります。そして、卒論にもいよいよ取り組む時期。「論文を読んだりフィールドワークを重ねて知識や経験を積み、自分をもっと鍛えていきたいですね。」

博物館の学芸員資格と教員免許の取得力りキウラムもこなしている奈良場さん。また、具体的な進路を定めてはいませんが、「何かしら人に貢献できる、自分が得たことを発信できる職業に就きたい」。青写真はもう描けています。

発表のための調査では、当時を知る人たちに直接インタビューも行いました。その時、「感情を込めて経験を語る姿を見て、さまざまなたちの生活のありようを捉えていきたい、大学では『本物』に触れる学問がしたい！」と感じたそうです。

それと重なるように当時、出会ったのが「ユニバーサル・ミュージアム」という考え方でした。自身も目に障がいを持つ国立民族学博物館の広瀬浩二郎氏が普及に努めているもので、触覚を博物館展示に積極的に生かそうという試みでした。

「それまでは自分を含めて、視覚障がい者は支援を受けるだけの側だと思っていたんですが、むしろ視覚障がい者がふだん用いている触覚を使って、社会に向けて発信することができるという構図が、僕にとっては衝撃的でした。」

誰かのために、それは誰もが

教育学の発展に寄与することを柱にしていた筑波大学では、障がい学生のサポートについても取り組みが進んでいます。ピア・チューター制度もその一つ。大学の養成講座を受講した学生が有償ボランティアとなり、学習支援

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

待っている人のもとへ。 1冊1冊、情熱と責任感を持って。

北海道札幌市の北西部に位置する手稲(ていね)区。JR手稲駅は札幌駅から函館本線で15分ほど。そこから車で約10分の山側の住宅地に、社会福祉法人アンビシャスの生活介護事業所“自由工房”があります。クロネコDM便の配達冊数は月に200〜300冊。2人のメイトさんが施設の近隣エリアを、徒歩で配達しています。



メイトさんの石川潤さん(左)と佐々木康太さん(右)。急な坂道の多いエリアを、週5日、徒歩で配達しています。冬は積雪と凍結で歩きにくくなり、とりわけ吹雪の日には転倒などの注意が必要となります。



生活介護事業所“自由工房”がクロネコメール便事業(後にDM便)を開始したのは、2009年。職員が利用者の工賃アップのための仕事を探していた時、外部研修でこの事業のことを知りました。メイトさんの希望者を募ったところ、2人が手を挙げたため、まずはチャレンジしてみようとスタート。それから約10年。2人はDM便配達という仕事に、格別の情熱と愛情を持って取り組んでいます。



上/ DM便の仕分けをする石川さん(左)と佐々木さん(右)。下右/パウチした手書きの地図に配達先を赤くマーク。下左/ヤマト運輸のCMのお気に入りのキャッチフレーズを、Tシャツに手書きしている佐々木さん。

DM便配達を担当するのは、メイトさんの石川潤さんと佐々木康太さん。仕分けから配達冊数の記録まで、すべてを任されています。地図は手

すべてを任せて安心
職員は最終チェックだけ

●札幌主管支店 札幌新発寒センター

面積6,663km²/人口42,497人/世帯数20,513世帯

●社会福祉法人アンビシャス 生活介護事業所“自由工房”

2009年3月、クロネコメール便(後にDM便)をスタート。1日の配達冊数は約20冊。他には、喫茶コーナーの運営、パソコン作業、バザー品の販売など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 315施設 従事者数 1,573人(2019年8月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



上/手の汗でDM便が汚れないようにと手袋をしている佐々木さん(右)。DM便を持つ、端末機操作、投函などを担当。石川さん(左)は地図の担当。配達先と配達ルートを確認します。
右上/「おはようございます、DM便です!」と元気に挨拶する佐々木さん(右)。
右/住所等をしっかりと確認して、投函する佐々木さん。



アンビシャス総合施設長の西村正樹さん(右)。「DM便の配達業務は確実にそれぞれの自信につながっている。仕事を通して、さらに可能性を広げてほしい」。「自由工房」職員の中山雄太さん(左)。「配達して分かったのは、不在票を立ちながら書くのはむずかしいこと。その場合は施設に帰り、不在票を書きこんでから、再度ポストに届けます。予め不在が予想される家には、配達前に職員が書いたものを持って行くなど、工夫しています」。

作り。新しい住宅が建つと地図に加えるなど、随時更新しています。集合住宅の転居・退去者はパソコンでリスト化。部屋番号と名前を必ず確認します。

仕分け作業では、佐々木さんがDM便の住所と宛名を読み上げ、石川さんが地図に配達先をマーク。DM便を番地順に並べて、配達ルートを決めると完了です。石川さんがお休みの金曜日は、佐々木さんがこの作業をすべて1人で行います。最後に職員の中山雄太さんがチェックして、配達の準備が整いました。

冬のホワイトアウトの日は配達を断念

「自由工房」は山側にあり、配達路の多くが坂道です。札幌市は12月から4月の終わりまで降雪期間。時には5月の初旬まで雪が降ることもあり、1年のほぼ半分、道路は雪で覆われています。雪が降ると、ロードヒーティング設備を施された道路以外は、道の両側に積み上げられた雪で道幅が狭くなって、歩きにくい状態に。とりわけ坂道は凍って滑りや

すくなるため、注意が必要です。吹雪の日など、危険だと思われる日には、職員が施設より上の山側方面だけ配達をサポートします。

また、冬季に何度かある、ホワイトアウトと呼ばれる数メートル先も見通せなくなる暴風雪の日は、職員が判断して配達を中止します。

「メイトさんがドライバーさんに直接電話をして、代わりに配達してほしいとお願ひします。仕事意識が高いので、できれば配達したいはず。でも、彼らが自分で伝えることで責任を果たしたと感ずるようです」と職員の中山さんは話します。

Tシャツの背中に熱い言葉 ブログも綴る日々

「場所に届けるんじゃない、人に届けるんだ」。メイトさんの佐々木さんは、このヤマト運輸のCMのキヤッチフレーズに感動して、ユニフォームの下に着るTシャツの背中に同じ言葉を手書きしています。毎日の

配達冊数を記すノートの表紙に書いてあるのは、「ヤマト隊」というチーム名。ヤマト運輸の仕事をすることに幸せを感じていることが、そここに感じられます。

また、佐々木さんは「自由工房」のホームページに、「自由工房の日記」というブログを連載。ブログは毎回、「こんにちわ、クロネコブログ便公式担当のKです」というフレーズで始まります。「カタログが70冊もあった」というニュースや、「夏の配達は暑くて焦げるーを通り越して干からびるー」など、ユーモアたっぷりの楽しい内容も。そして、ブログの最後はいつもこのフレーズで締められています。「場所に届けるんじゃない。人に届けるんだ!また来月!」と。「ヤマト隊」の熱い想いが伝わってきます。

やりがいを感じながらの仕事がりがすばらしい

ヤマト運輸札幌新発寒支店 加藤志麻支店長は、仕事なりに感動したと話します。「仕事にやりがいを感じていることを知ってうれしい。週に5日の配達を長く続けていることや、トラブルも事故もないことはすばらしい」。エリア拡大も考えたいと語ります。

ヤマト運輸札幌主管支店 サービスセンター 菊池光寿センター長は「誤配もほほなく、安心して任せられます。表札のない家や引っ越しの多いアパートなどがたくさんあってリスク

も高い中、しっかりと対応してもらっています。期待通りの仕事ぶりでありがたい存在です」と話しました。

山を宅地開発したこのエリアには、自然が多く残っています。取材日には、配達途中で、シカの親子4頭に遭遇。時にはリスやハビも出るそうです。

「ここはマムシに注意!」を、地図に細かく書き込むなど、配達地域をすっかり熟知しているメイトさんたち。このエリアを愛し、住んでいる方々を大切に思いながら、1冊1冊、ていねいに「人」へ届けています。



前列左から/アンビシャス総合施設長 西村正樹さん、佐々木康太さん、石川潤さん、「自由工房」職員 中山雄太さん
後列左から/ヤマト運輸札幌主管支店 サービスセンター 菊池光寿センター長、ヤマト運輸札幌新発寒支店 加藤志麻支店長、ヤマト福祉財団北海道支部 安井直子事務長

昨年7月に発生した西日本豪雨。広島では土石流が町を襲い、中心を流れる川の氾濫、岡山では堤防が決壊し多くの民家が浸水する被害がありました。

ヤマト福祉財団では、西日本豪雨で被災された障がい者施設の復興再生を支援すべく、行政の協力を得て情報を収集。住居や施設については行政の支援により概ね復興していましたが、就労支援事業の復旧が困難な状況が見えてきました。そこで、被害が甚大だった倉敷市真備町の障がい者施設を再度調査。3施設への西日本豪雨復興再生助成金を決定し、贈呈式を行いました。

西日本豪雨 復興再生助成金

三つの障がい者施設へ助成金を贈呈

NPO法人いちご一会いちごの家「ナップ」

災害前に考案中だった、桃太郎、鬼、猿などキャラクターの焼き菓子製造販売を実現化へ。店頭での焼きたて販売に加え、岡山の土産用に個包装で販売するための小型包装機を助成しました。これで売上増を図ります。



一般社団法人ジャングルランド みんなの農園

野菜や花苗の栽培や販売を事業としています。野菜は豊作になっても保存がきかないので廃棄するしかありません。助成金で食品乾燥機を設備し、さらに売上を伸ばすことを考えています。



一般社団法人小田川ドリーム

建築資材として、ホームセンターや建材店向けに砂、碎石の小分け、出荷作業を行っています。災害前は親会社から設備の貸与を受けていましたが、親会社も甚大な被害を受け、設備を自前で用意することになりました。助成金で海上コンテナ他を設備します。



バイク・ド・ナチュレ株式会社／パン・焼き菓子の製造販売とベーカリーショップの経営を行う、エン・ジャパン株式会社の特例子会社。26名の障がいのあるスタッフが雇用されています。



製造チームのみなさんと一緒に。前列右から3人目が中下雄太さん

お給料を貯めてアイドルグループのライブに行きたい!!

クッキーの包装とシーラーをかける仕事に「プロです!」と自信を持って応えてくださった中下雄太さん。お給料は大好きなアイドルCDに使っているそうです。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「2種類のクッキーをセットするのですが、当初は、クッキーの違いがわからず、シーラーのかけ方も空気が入りすぎたり、試行錯誤しました。それがあるとき、みんなと同じやり方でセットできるようになったんです。シーラーも上手になりました」と店長の木村圭子さん。
大きな声でコミュニケーションをとるのが少

働きやすい環境を整える 仕組みがあります

都営浅草線西馬込(東京都大田区)の駅から歩いて10分強、住宅街のなかにある「バイク・ド・ナチュレ」が中下雄太さんの職場、エン・ジャパン株式会社の特例子会社です。

ベーカリーとして、また、おからクッキーをはじめとする焼き菓子の通信販売で人気の店。中下さんが担当するのは、焼き上がったおからクッキーの包装・シーラーをかける仕事です。



中下さん担当の袋詰めとシーラー作業

天板ふきは、みんなに褒められました

中下 雄太 さん バイク・ド・ナチュレ株式会社(平成30年4月23日入社)

グループホームからバスを2本乗り換えて、1時間強の通勤が大変だと中下さん。休日は部屋のお掃除や大好きなアイドルのCDを聞いてリフレッシュしています。

し苦手な中下さん。バイク・ド・ナチュレの体験実習で木村店長が採用を決めたのは、苦手なこともあるけれど、コツコツ仕事をする姿勢といつもニコニコしている中下さんの笑顔。一緒に働ける仲間だと直感したと言います。

障がい者スタッフ・社員・パートさんをあわせて総勢40名が働くバイク・ド・ナチュレでは、社員の成長や日々の問題を解決するため、専属のジョブコーチが1カ月に2回来社し、木村店長とともに一人ずつの面談や、1カ月おきに全員参加の研修を行っています。面談では、それぞれの悩みや目標を共有。社会人として必要なマナーをはじめ、スタッフが気持ちよく働けるように、安全に質のよいものを製造するためにどうするかなど、現場を検証しながらその都度必要な研修を行うなどの仕組みを整えています。

「じつは、中下さんが拭いたクッキーを載せる天板は、拭き残しがなくて、すぐに使えると、みんなから褒められたんです。初めてのことで。これはとてもすてきなこと。包装の仕事だけでなく、新しい仕事を見つけてあげたい。成長してほしい」と、木村店長が話してくださいました。



「みんなの集中力、ピュアな心に頭が下がります」と、木村圭子店長

YWF TOPICS

ヤマトグループ企業労働組合連合会より6708万円のご寄付をいただきました。
みなさんのご意思を大切に活用します。



ヤマト運輸労働組合第74回定期中央大会が9月12・13日に湯沢カルチャーセンターで開催され、その中で「夏のカンパ」の贈呈式が行われました。組合員のみなさまから今年は6708万円の多大なご寄付をいただきました。

森下中央執行委員長からカンパの目録を受け取った山内理事長は、「日本国内に何人の障がい者がいるかご存じでしょうか。約930万人、じつに

国民の14人に一人が障がい者だそうです。「優しい」という文字は「人を憂う」と書きます。周囲の人を心配するという意味です。周囲や地域において、障がいのある方にみなさん一人ひとりが「優しく」なることはヤマトの社員として大切なことだと思います。私も小倉昌男氏の財団創設時からの取り組みに、みなさんのご意思を大切に活用していきます。ありがとうございます」とお礼のあいさつを行いました。

よきA型を目指した経営

A型事業所好事例報告フォーラム 8月2日



A型事業所の使命・可能性について活発な意見が交換されました

全Aネット(NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会)が主催する「A型事業所好事例報告フォーラム」が8月2日、120名の参加者を集めて、名古屋で開催されました。

平成29年2月にA型事業所の全国調査を実施、その調査結果から現地ヒアリングを行い作成した「A型事業所好事例報告書」掲載の事業所紹介を中



「全国の好事例に学び、各地のA型事業所の仕事おこしの発展が生まれていくように」とAねっとあいちの大会宣言で締めくくりました

心に進められました。最初に、埼玉県立大学の朝日雅也教授が「A型の情勢とA型に求められること」をテーマに基調講演を、続いて農業、IT、レストランなどを行う六つの好事例事業所が報告。シンポジウムではA型事業所の役割や今後のあるべき姿について議論を深めていきました。

ヤマト福祉財団は全Aネットの活動を継続的に支援しています。

YWF TOPICS

音楽宅急便 アウトリーチ・コンサートin大塚 9月3日



全身でタクトを振る姿に合奏団も会場も大盛り上がり！ 保育園の園児たちも楽器やその音色に興味津々

今年で34年目を迎える音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」。昨年の特別支援学校での公演に続き、障がいのある方にもクラシックを楽しんでいただこうと、アウトリーチ公演が企画されました。今年は、第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞の上野容子氏が顧問をされている(社福)豊芯会の地元に、指揮者の飯森範親氏、司会の朝岡聡氏、東京交響楽団クロネコ合奏団14名がお伺いしました。利用者さんや関係者のみなさん、地域の園児たちが参加。クラシック音楽に触れるひとときを過ごしました。指揮者を体験するコーナーでは、会場から沢山の手が挙がりお二人が壇上へ。豊芯会のフードサービス事業所で弁当の配達をしているAさんは、ハンガリー舞曲第5番のタクトを振り、飯森範親マエストロも喝采するほどの熱演。会場も大いに盛り上がりました。

9月30日には、第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞の村上和子氏が理事長をされている、(社福)シンフォニーでも開催されました。

障がい者助成事業

令和元年度奨学生の贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、社会で活躍することを目指し、勉学に励んでいる障がいのある大学生に月額5万円(返済不要)の奨学金を差し上げています。今年は10名の新たな奨学生を決定。キャンパスにお伺いして贈呈式を行いました。



東京大学
菅田 利佳さん 教養学部文科三類 1年(左)
奥田 祥太郎さん 教養学部理科二類 1年(右)



杉山 寛大さん
筑波大学 人間学群障害科学類 1年



伊藤 瑞輝さん
東北大学 工学部機械知能・航空工学科 2年

福祉ねぶたがラッセラー

今年で39回目となる福祉ねぶたは、8月4日に、多くの障がい者が集まりました。ヤマト運輸ねぶた実行委員会の協力で、運行には障がい者を含めて約2000人が参加。天候にも恵まれ、青森の夜空にラッセラーの音が響きました。



山内理事長もうちわで、障がい者と一緒にラッセラー(写真上)ヤマト運輸ねぶた実行委員会のねぶた「菅原伝授手習鑑 車引」(作:北村隆氏)(写真下左)

沖縄パワーアップフォーラム 分科会活動

昨年より3年連続で開催するパワーアップフォーラム沖縄会場では三つの分科会に分かれて活動しています。

第1分科会では「食文化・販路開拓・アンテナショップづくり」、第2分科会では「ビジネスマッチング」、第3分科会では「観光・おもてなし」をそれぞれテーマに1年間ミーティングや現地視察等を行ってきました。

活動2年目に入り、2回目のフォーラムで新たに参加されたメンバーも加え目標実現に向けて取り組んでいきます。



第1分科会
与那原大綱曳き大会でのマルシェ



第2分科会
(有)仲松ミートの障がい者雇用を視察



第3分科会
西表島での事業所視察

ゴッホ展 人生を変えたふたつの出会い



フィンセント・ファン・ゴッホ 《糸杉》 1889年6月
メトロポリタン美術館 Image copyright © The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY



フィンセント・ファン・ゴッホ 《陶器と洋梨のある静物》 1885年9月 コトレヒト中央美術館
© Centraal Museum Utrecht/Ernst Moritz



アントン・マウフェ 《4頭の牽引馬》 制作年不詳
ハーグ美術館 © Kunstmuseum Den Haag



フィンセント・ファン・ゴッホ 《麦畑》 1888年6月 P. & N. de Boer財団
© P. & N. de Boer Foundation



ポール・セザンヌ 《オワーズ河岸の風景》 1873-74年 モナコ王宮コレクション
© Reprod. G. Moufflet/Archives du Palais de Monaco



フィンセント・ファン・ゴッホ 《ジャガイモを食べる人々》 1885年4-5月
ハーグ美術館 © Kunstmuseum Den Haag

ゴッホとは

フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)は、画廊勤務や伝道師の仕事を経て、27歳の頃に画家になる決意をしました。決して早いスタートではありませんでしたが、それからの10年間は、探求心と創意をもって熱心に絵に取り組みました。

はじめは模写などの自学でしたが、ハーグ派の画家たちと交流することで腕を磨きます。画家ゴッホの土台はこの時に築かれたのです。それから彼はオランダ各地を転々とした後、弟テオの住むパリに行きます。ここで最新の芸術の動向や日本の浮世絵などに刺激を受けて作風を劇的に変化させました。特に印象派からの影響は大きいものがありました。

その後アルル、サン＝レミ、オーヴェル＝シュール＝オワーズと移動する中で自然や人々と向き合い、原色の渦巻く激しい筆遣いや生命力に満ちた作風を確立しました。

人生を変えた2つの出会い―「ハーグ派」と「印象派」

画家としての活動はわずか10年のゴッホが唯一無二の表現を獲得した背景には大きな2つの出会いがありました。

27歳の時に出会った「ハーグ派」。農村生活を静謐な筆致で描いた彼らからは画家としての基礎を学びました。親戚でもあったマウフェからは直接手ほどきも受けています。パリに出て出会った「印象派」からは原色を対比させた明るい色遣いと、筆触の跡をはっきり残す描き方を学びました。この2つの出会いがゴッホの画家としての人生を形作ったのです。

本展では、ゴッホ作品約40点、ハーグ派と印象派を代表する巨匠たちの作品約30点とゴッホの手紙の言葉を随所に配置しながら、独自の画風にたどり着くまでの過程を掘り下げます。どうぞお楽しみください。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

DATA

開催期間 ▶ 2019年10月11日(金)～2020年1月13日(月・祝)
休館日 ▶ 12月31日(火)、1月1日(水)
開催場所 ▶ 上野の森美術館
アクセス ▶ JR上野駅公園口より徒歩3分
東京メトロ・京成電鉄上野駅より徒歩5分
開館時間 ▶ 9:30～17:00(金曜、土曜は20:00まで)
※最終入場は閉館30分前まで

観覧料 ▶	一般	高・専・大学生	小・中学生
当日	1,800円	1,600円	1,000円

※身体障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料となります。手帳をご提示ください

主催 ▶ 産経新聞社、BS日テレ、WOWOW、ソニー・ミュージックエンタテインメント、上野の森美術館
後援 ▶ オランダ王国大使館

協賛 ▶ 第一生命グループ、大和証券グループ、高松建設、NISSHA、アトレ、関電工、JR東日本
協力 ▶ KLMオランダ航空、日本航空、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン
問い合わせ先 ▶ TEL 03-5777-8600(ハローダイヤル)
*前日8:00～22:00
<https://go-go-gogh.jp/>
巡回情報 ▶ 兵庫展 兵庫県立美術館 2020年1月25日(土)～3月29日(日)

クリスマスには家族でスワンのケーキ

今年も8種類のハッピーなスワンのクリスマスケーキが勢ぞろい。可愛らしさ満開のハッピーロゼ・フルールやカットするとハートに変身するハッピー-SWANフロマージュなど。迷ったら選べる楽しさのア・ラ・カルトはいかがですか。ハッピーなクリスマスは家族で楽しめるスワンのケーキをどうぞ。

お申し込み 11月1日(金)～12月5日(木)
お届け日 12月20日(金)～12月24日(火)
●障がい者施設からご予約いただけます。

お問い合わせ
☎0120-230-787

スワンペーカリー



XA ハッピーロゼ・フルール



XB ハッピーショコラ・パール



XC ハッピーア・ラ・カルト



XD ハッピー-SWANフロマージュ



XF ハッピーストロベリー



XE ハッピーモンブラン

つたわる
フロント

VEGETABLE
OIL INK

読みやすさを追求した書体